

# GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

## 1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造
b.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等

## 2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社はカーボンニュートラル実現に向けて、GI基金支援技術を活用した水素製造設備を調達します。

b.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社グループ全体で保有する社有車について、電気自動車等の導入を積極的にすすめます。

## 3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

## 4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造
削減対象	Scope 3
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	50%
削減目標における選択対象の位置づけ	GI基金支援技術を活用した水電解装置を設置し、水素を製造・供給することで、当社が供給している天然ガスを代替し、Scope3を削減します。 なお、当社は2030年度にサプライチェーン全体（Scope1,2,3）の排出量を2013年度比で50%削減することを目標にしています。

b.	電気自動車等
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	70%
削減目標における選択対象の位置づけ	社有車に電気自動車等を導入することにより、ガソリン使用量（Scope 1）を削減します。なお、当社はサプライチェーン全体（Scope 1,2,3）の排出量を50%削減することも目標にしています。

## 5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造
目標年度	2030年度
定量的目標	水電解装置（10MW級、1地点）を用いた水素製造、供給
選択対象に関する定量的目標の概要	2030年度までにGI基金支援技術を活用した水電解装置（10MW級）を1地点に設置のうえ、水素を製造・供給します。 ただし、GX価値を積極的に認めた上で、適切な投資回収が見込まれることを条件とします。

b.	電気自動車等
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

#### 6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	子会社
------	-----

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

(日付) 2025年5月22日

(企業名) 関西電力株式会社  
(責任者名) 取締役代表執行役社長 森 望